

令和5年4月13日(木)

オールイングリッシュ授業

2017年3月31日、現在の学習指導要領が発表されました。その中で、中学校の学習指導において、英語の授業は英語で行うことを基本とすることが定められました。

中学校では、令和3年度から、英語の授業は英語で行う「オールイングリッシュ授業」が基本となっています。もちろん、授業を英語で行うことはあくまでも「基本」であり、また使用する英語についても生徒の理解度に合わせます。ですから、何から何まで英語を使用するのではなく、必要な場合は適宜日本語を使用することも十分にあり得ます。

しかし、日本語を使用することがあると言っても、簡単な動作を指示するだけでは「オールイングリッシュ授業」とは言えません。教科書や文法指導、アクティビティなど全ての場面で、可能な限り英語で行います。「普段の授業で自然な英語を使用し慣れておくことで、授業以外でも生徒自身が英語を使える力をつける」というのが最終的な目的です。

学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実させるとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする。その際、生徒の理解の程度に応じた英語を用いるようにすること。」と明記されています。

ちなみに、小学校でも、2年前から、5・6年生の英語が必修教科となり、3・4年生から外国語活動を実施しています。つまり、小学校4年間、中学校3年間の英語学習となって2年経過しているのです。

高校でも既に「オールイングリッシュ授業」で授業が行われています。つまり、今後、皆さんが日本全国どこで学んでも、英語の授業は、英語で行われるということです。